

# アジアのハンセン病患者救済 民間基金あす発足

あなたの善意を、アジアのハンセン病患者に——医療や教育などに資金援助をしている公益信託「アジア・コミュニティ・トラスト」(ACT)渡辺武・運営委員長)が今年から、フィリピンなどのハンセン病患者の歯科治療や啓もう活動に乗り出すことになった。三十年以上も地道に治療奉仕活動を続けてきた歯科医グループが三千万円を寄託するのをきっかけに、ACTが協力。この「梅本記念救済ライ基金」は、救済の目的二十五日発足する。

## 高槻の歯科医ら尽力



梅本 芳夫氏

できなかった。そこで、梅本さんたちは国内のライ治療所、三十五年からは米軍政下の沖縄、そして韓国、台湾、フィリピンの療養所を訪ねて治療に回った。七一年には岐阜歯大にも同様の奉仕団ができた。音楽家の協力で毎年二、三回、チャリティコンサートを開き、その利益が資金にあてられた。しかし、近年、活動は下火に

なりつつある。「昔と違い、学生や若い歯科医が関心を示さなくなつた」と、いま中心になっている一人、高槻市の歯科医、恩田信雄さんは嘆く。病氣と貧困が重なって深刻なフィリピンなどの療養所に、メンバーもひしひしと力の限界を感じ始めた。そこで恩田さんたちは、ACTという公益信託を活用すれば、一段と活動を広げ、しかも安定した活動が続けられることを知った。ACTは、七九年、財団法人・日本国際交流センター内に作られた、アジア向け「善意の代行業」。三千万円を寄託して特別基金をつくらせ、基金を運用し、「アジアのハンセン病患者の歯科治療や衛生知識の普及」の目的にあった民間活動を資金援助する。グループは、今後はその基金から援助を受ける団体の一つとして活動する。

このグループは、梅本芳夫・大阪歯大名教授(七〇)の教え子たちと賛同者の歯科医約百二十人の集まり。梅本さんは、細菌学の教授として早くからハンセン病に関心を持っていたが、一九四七年から、同僚や学生と一緒に夏休みを利用、ハンセン病患者の治療や慰問を思い立った。五〇年、グループの前身の大阪歯大救済ライ奉仕団が誕生した。

ハンセン病患者は、後遺症の手足の変形のため、歯をみがきにくく、虫歯や歯そのものの割合が高い。また、社会の偏見のため、歯科医が診療を怖がり、十分な治療を受けることが

は、一段と活動を広げ、しかも安定した活動が続けられることを知った。ACTは、七九年、財団法人・日本国際交流センター内に作られた、アジア向け「善意の代行業」。三千万円を寄託して特別基金をつくらせ、基金を運用し、「アジアのハンセン病患者の歯科治療や衛生知識の普及」の目的にあった民間活動を資金援助する。グループは、今後はその基金から援助を受ける団体の一つとして活動する。

伊藤道雄・ACT運営委員会事務局長は「民間から賛同の資金を集めて、もっと多くの歯科医や医師を派遣できるようにしたい」と、善意の輪が広がるのを期待している。